

第 11 回 京都府北部福祉人材確保・定着戦略会議

●日 時 令和元年 8 月 19 日 (月) 13:30～15:00

●場 所 京都府立中丹勤労者福祉会館

●内 容

1 開会のあいさつ

京都府では、第 8 次京都府高齢者健康福祉計画にて 2018 年度から 2020 年度の 3 年間で新たに 7500 人、そのうち北部 1050 人の福祉人材を確保する計画を立て、事業を推進しているところ。そして昨年度 (2018 年度) は 2485 人、そのうち北部 376 人を実現した。

京都府北部は、府内でも特に高齢化率が高く、介護・福祉人材の確保が喫緊の課題となっていることから、舞鶴市の養成校、福知山市の現任者研修施設、宮津市の総合実習センターの 3 拠点を核に地域全体で福祉人材を養成する仕組みを構築し、展開している。また、京都市内等の大学実習を誘致する北部福祉フィールドワーク事業についても、北部での就職に繋がる等一定の成果も出てきている。

本日は、関係機関が連携し、より一層効果的に福祉人材の確保と定着を進め、地域の福祉を考える有意義な場としたい。

2 議題

(1) 京都府北部の介護・福祉人材確保事業について

○令和元年度 京都府介護・福祉人材確保総合事業について (説明)

I 京都介護・福祉人材総合支援センター (FUKUJOB きょうと) の運営

II 福祉人材育成認証制度等の活用促進

III 京都府北部人材養成システム推進事業

IV 介護福祉職場の業務効率化事業

介護福祉職場の業務効率化に資する介護ロボットの導入経費への助成

○令和元年度 京都府北部人材養成システム推進事業の推進について (7 月末時点の報告)

■北京都ジョブパーク福祉人材カフェ

新規登録者数 : 187 名 (年間目標 : 420 名)

内 定 者 数 : 110 名 (年間目標 : 360 名)

・新規登録者を適切な時期にフォローすることで、具体的な相談につながっている。

・新規登録者の内 40 歳以上が全体の 55%を超え、全体的に就職希望者の年齢層が高まる傾向にある。

福祉希望者の男女比も女性が 70%であり、家庭の状況から子供が小さい間は、正社員を希望されない

ケースが多いこと、またパート職の就業を希望される傾向が高いことから、正社員の内定者数は伸び悩んでいる。

・相談者は 50 歳以上の方が増加し、逆に 30 歳代から 40 歳代の方が減少している。

・8 月には大きな就職フェアが 4 回あるので参加を促し、内定率の向上に努めることとする。

・ジョブパーク事業とも効果的に連携している。

5 月「北部 7 市町合同企業説明会」(in 京都みやこめっせ) :北部地域から福祉 19 法人が出展

6 月「綾部・福知山合同企業説明会」(in 大阪 梅田) :北部地域から福祉 5 法人が出展

■ハローワーク連携事業

- ・昨年度に引き続き、北部地域のハローワークと連携し、府北部各地で就職説明会・職場見学会等を実施。
- ・積極的に人材確保が必要な事業所のミニ就職説明会については、7月末までに33回実施。各回の参加人数は5名以内であるが、求職者に対しきめ細かく対応できている。
- ・北部のハローワークと連携し、福祉の就職説明会を5回、福祉職場見学・体験会を6回実施、合計42名の方に参加いただいた。

■福祉即戦力人材養成科

- ・令和元年 8月1日～令和元年12月27日開講（丹後会場 24名）
- ・令和元年10月24日～令和2年3月23日開講（中丹会場 募集中）
- ・早々にチラシを作成し、各団体に働きかけたことで、丹後会場は順調に受講生が集まった。

■理解促進事業

- ・次世代担い手育成事業（小学校・中学校 対象）
9月中旬までで6校138名が参加予定
- ・次世代担い手育成事業（高校生 対象）
出前講座、福祉施設の見学会、インターンシップを実施

■大学実習等誘致事業（北部福祉フィールドワーク事業）

- ・京都市内10大学・約150名の学生が参加予定
- ・2泊3日を基本プログラムとしているが、学生の需要に対応し、1泊2日の短期プログラムも実施
- ・秋以降で、市町別の1dayプログラムの実施予定

《きょうと介護・福祉ジョブネット 北部フィールドワーク型実習推進チーム》

- ・以下のとおり会議を開催し、チームメンバーを核に北部地域の福祉事業所、医療機関、行政等が連携し北部地域の環境を活かした福祉の学びのプログラムを推進している。
 - 第1回会議（5月21日）：フィールドワークの進め方を確認
 - 第2回会議（9月26日）：フィールドワーク実践状況報告、1dayプログラムの進め方を検討
- ・京都府北部福祉フィールドワーク事業は地方創生に向けた、地域や福祉施設等の協働による地域づくりと人づくり、ソーシャルワーカーの養成という観点からも注目されている。

（2）府北部各市町、関係団体からの報告

○北部福祉人材養成システム

《福知山民間社会福祉施設連絡協議会》

- ・介護福祉士実務者研修：6月～12月、12日間で開講。56名受講。
- ・介護職員初任者研修：4月～7月、12日間で開講。16名受講。
- ・現任者研修
 - 契約職員研修：（7月開催予定であったが延期）
 - 基礎技術研修(2日コース)：13名受講

・京都府北部協働推進事業研修

職場リーダー養成研修 in 与謝野：42 名受講(7/2)

組織活性化研修 in 与謝野(2 日コース)：46 名受講(7/11)、52 名受講(7/17)

・今後の予定

中堅職員向 OJT 推進力向上研修：40 名定員

外国人受け入れスタッフ研修：30 名定員

その他（普通救命講習、防災研修、介護福祉士国家試験対策講座）

《舞鶴 YMCA 国際福祉専門学校》

・入学者数の変遷

H27 14 名 → H28 23 名 → H29 23 名 → H30 22 名 → H31 23 名

・今年度入学者 23 名

・これまでの卒業生 52 名は、すべて介護・福祉施設に就職。

《宮津総合実習センター》

・資格実習（介護福祉士、社会福祉士、保育士、看護師）の実施。

・インターンシップ、フィールドワーク等での学生受入。

学生のニーズに合わせたプログラム（課題解決型・職場体験型・フィールドワーク型）を実施

他法人と連携し、法人の特色を活かし、福祉職場と府北部地域の魅力を伝える見学ツアーを実施

・中・高校生ボランティア、現場体験の受入（アクティブラーニング）、地元高校の授業を受け持っている。

○府北部各市町、関係団体

《福知山市》

・介護人材確保対策事業 11,179 千円（継続）

各種助成金支給事業：介護職員 UI ターン家賃助成事業(⑩12 名)、介護福祉士修学資金貸付事業(⑩1 名)、介護福祉士実務者研修受講料補助金（⑩32 名）、介護職員初任者研修受講料補助金（⑩10 名）
介護職員実務者研修実施補助金（研修会場の使用料補助）

・京都府福祉人材・研修センターと協働で秋に「介護に関する入門的研修」の実施を予定。これまで介護に縁のなかった層、退職後の方・子育てを終えた主婦の方等に介護の仕事に興味を持ってもらう機会であり、この取組に注力する。

《舞鶴市》

・介護人材確保支援事業 49,460 千円（継続）

・舞鶴 Y M C A 国際福祉専門学校と連携して介護人材の確保に向けて支援事業を実施。

各種資格取得支援事業（介護福祉士奨学金制度、介護福祉士資格取得支援講座受講料助成、介護職員初任者研修受講料助成）

・介護職場就職後のフォローアップ体制の構築事業

《宮津市》

- ・介護人材確保推進事業 3,500 千円（継続）
介護資格取得研修等の受講費の補助金、介護福祉士修学資金、雇用機会拡大補助金
- ・府北部福祉フィールドワーク事業に、地域資源、介護・福祉行政及び付帯施設の見学及び説明等、積極的に参画し、大学実習を協働で受け入れる。

《綾部市》

- ・UI ターン介護人材確保事業 1,500 千円（市内の介護事業所に就業する UI ターン者及び新規学卒者に対する家賃補助）
- ・介護福祉士養成支援事業費 2,000 千円（修学資金貸与）

《京丹後市》

- ・京丹後市介護福祉士養成奨学金 1,800 千円（継続）

《伊根町》

- ・介護福祉士資格取得研修費補助金 100 千円（継続）
社会福祉士、介護福祉士の資格を取得するために必要な研修の受講費を補助
- ・修学支援資金について 来年度実施に向けて検討している。

《与謝野町》

- ・喀痰吸引等研修事業費補助金 60 千円（継続）
- ・介護福祉士修学資金貸与事業 1,200 千円（新規）
- ・福知山民間社会福祉施設連絡協議会主催の現任職員研修を町で開催。周知等協働で実施。
職場リーダー養成研修 : 42 名受講(7/2)
組織活性化研修(2 日コース) : 46 名受講(7/11)、52 名受講(7/17)

《京都府福祉人材・研修センター》

- ・介護人材のすそ野を広げるため、「介護に関する入門的研修」(4 日間のプログラム)を今年度は福知山市のほか、3 市(亀岡市・京都市・宇治市)と連携して開催する。最終日の午後に開催する地域の福祉施設見学ツアーに加え、7 から 10 日後に開催自治体と共同で実施する合同就職面接会等、市町村連携しながら一緒に取り組む形での事業展開が京都府事業の特徴である。
- ・上記のほか、9 月には舞鶴市と協働で保育園及び認定こども園見学ツアーを実施予定。(府保育人材マッチング支援センター(京都府福祉人材・研修センター)事業)
- ・市町村との連携型事業として、他にも「地域就職フェア」を実施しているが、地域の事業所が出展し、地元の方が参加することからマッチング率は比較的高くなっている。今後とも市町村と連携・協力しながら、こうした事業を地道に続けるとともに、各求職者にとっての働きやすさも意識したマッチングを行っていきたい。

○意見交換等

- ・福祉人材確保について、新しく介護・福祉の仕事につかれる方がある一方で、同じ数だけ離職されるという状況があり、現場では依然として福祉人材の不足感がある。介護・福祉人材の不足状況について実態を分析するとともに、職員の定着に向けた取組（離職への対策）についても様々な観点から検討し取り組んでいきたい。
- ・三重県の福祉人材センターが行った“介護や福祉の仕事にどのようなイメージを持っているかまとめた調査”では、中高生よりもその保護者の方が、悪いイメージをもっている傾向があるという結果となっていた。福祉職場の魅力発信事業の今後の展開として、保護者への訴求を検討していきたい。
また、福祉職場の魅力発信については、中学生及び高校生への発信がとても大切であると考えている。福祉職場体験で経験した感動を、自ら就職先を選択する時期までどのように持ち続けていただくか、その仕掛けが必要。
- ・離職者向けに介護職員初任者研修を開催しているが、受講生が集まらない状況がある。地域のニーズに合った研修を開講できているかについて、今一度見直し、検討していきたい。

3 その他 参考となる情報の提供

《同志社大学 野村准教授》

- ・「京都府北部福祉フィールドワーク事業」には当校も参画しており、昨年度は 21 名の学生が参加。参加学生のうち 1 名が京都府北部の福祉事業所に内定をいただいている。
- ・京都府北部地域のまちぐるみで、福祉事業所や医療機関などが連携し、北部地域に人を呼び込み北部地域で育てるといふこの仕組みは、この戦略会議の話し合いプラットフォームにおいて、3 拠点を核とした養成システムの効果的な展開を考える上でも一定の役割を果たしていると思う。
- ・福祉の専門職を養成するにあたっての貴重な学びを短期間で体験できることから、大学関係者の関心も高い。また、本事業の実践により、実際に、府北部地域に縁もゆかりもない若者の I ターンによる就職が実現していることから、他府県からも注目されているところである。
- ・実際、北海道十勝の人口 3000 人の小さな村「更別村」は、府北部福祉フィールドワーク事業の実践について、府北部地域の福祉事業所・医療機関・行政等が実際に連携し、福祉の専門職の養成につながる学びの場を提供している点に着目し、過疎地域に縁のない人を I ターンで呼び込む可能性が広がる画期的な施策という観点から注目している。

〔参考〕さらべつ版生涯活躍のまち構想（さらべつ版 CCRC プロジェクト）

地域創生の取組のひとつとして、関係機関の連携強化や多世代交流、子どもから高齢者、障害者など世代や立場を超えてお互いの生活を支え合う地域共生社会の実現により、すべての村民が安心して住み続けられる村の実現を目指すもの。

都市部で生活する高齢者が自らの希望により村に移り住み、地域社会で「生きがい」や活躍の場を得て、健康でアクティブな生活を送るとともに、必要に応じて、福祉・医療・介護サービスを受けることができる、地域包括ケアの確立といった総合的な地域活力の向上を目指すもの。

なお、「さらべつ版 CCRC」は、障がい者施策の充実に力を入れていることが特徴であり、障がいがある人もない人も、“わがまちで 育ち・働き・家族を持って欲しい”という発想から、コンソーシアム形式で社会福祉法人の法人間連携の仕組みづくり取り組まれている。

以上。